



知里幸恵ノート

平成 22 年 3 月、当館所蔵の知里幸恵ノートが道指定文化財に指定されました。
 (2 ページに関連記事掲載)

目 次

| | |
|----------------------------------|-------|
| 「に れ」 | 1 |
| 北方資料室所蔵「知里幸恵ノート」について | 2 |
| 「こどもの読書週間」関連事業 | 3~4 |
| 子ども向け図書館ツアー2010「ぼくらは図書館たんけん隊!!」 | |
| 「あつまれ！森林公園クイズラリー」 | |
| 資料展「たんけんしたいな 本の森」 | |
| 平成 22 年度全道図書館新任職員研修会 | 5 |
| 連携事業報告 | 6 |
| かるちやる net (文化施設連絡協議会) | |
| 図書館海援隊が始まりました | |
| 所蔵資料展「国民読書年関連資料展&北方資料室 40 周年記念展」 | 7 |
| 所蔵資料紹介『鉄道公報』 | 8 |
| 道内図書館紹介「松前町立図書館リニューアルオープン！」 | 9 |
| 掲示板 | 10~11 |

に れ

桜 の 植 樹

北海道立図書館長 河 合 正 月

敷地面積 6 万㎡を有する道立図書館の前庭は、利用者をはじめ子供や学生達など地域の方々の憩いの場としても解放されており、特に、春から秋にかけては多様な樹木が生い茂る緑豊かな広場として人気があります。

この敷地に、5月16日、北海道を代表する「えぞやまざくら」の苗木80本を植樹しました。これは、20年の長きにわたり桜の苗木を全道各地へ無償提供し、環境美化活動を実践されている旭川市在住の山崎正夫様のご厚意によるものであります。

また、当日の植樹に当たっては、JR 北海道の皆様が苗木の運搬や添え木等の用意から植樹まで、全面的にボランティアとしてご協力いただきました。

関係者の皆様の心温まるご支援に、改めて感謝を申し上げます。



道立図書館に植えられた桜の苗木

昭和42年、現在地に移転した当時も桜が植樹されましたが、以後40年余りの間に風害や病害などにより年々減少してきましたので、古樹木達もさぞ嬉しかったのか？植樹当日は花が満開でした。（今年は天候不順により開花時期が遅れたためですが・・・）

桜は愛情を持って育てれば応えてくれると言われていますが、一方で病害虫に弱い樹木なので、桜には素人の図書館で無事に育ててくれるのかとても心配しています。

近年、図書館には住民や地域が抱える課題解決に向けて、図書館が有する様々な情報の提供や関係機関との連携、子供の読書活動への支援など新たな役割が求められています。道立図書館としては図書館のセンターとしての役割を踏まえ、道内の図書館活動の充実のため、より一層の支援に努めたいと考えております。

こうした今後の道立図書館の取組みを、今回植樹した若い桜達が一本でも多く見守ってくれるよう大切に育てるとともに、毎年春には満開の花が咲き誇り多くの人々を楽しませてくれることを望んでやみません。

ちりゆきえ 北方資料室所蔵『知里幸恵ノート』について

北海道教育委員会は、平成22年3月16日、当館北方資料室所蔵『知里幸恵ノート』（4冊）を北海道指定有形文化財に指定しました。

このノートは、アイヌ語を母国語とし日本語にも精通する知里幸恵（1903.6～1922.9）という登別市出身のアイヌ人女性が、アイヌ民族の間で語り継がれてきた口承文芸である“ユカラ”（詞曲）を書き綴ったもの（本文は、左頁にローマ字表記のアイヌ語、右頁に日本語訳の体裁）です。



道指定文化財に指定された理由は、知里幸恵の研究資料として貴重であるばかりでなく、明治大正期を生きた一人のアイヌ民族の女性が遺した歴史的遺産として、極めて重要であると評価されたことによります。

知里幸恵は、アイヌ語研究の創始者である金田一京助との出会いやその後の勧めもあり、このノートの中から“カムイユカル”（自然神謡）と呼ばれる13篇を選択し、出版に向け原稿をまとめました。これは『アイヌ神謡集』という書名で1923年に郷土研究社から、後に1978年に岩波書店（岩波文庫として）から、それぞれ刊行されましたが、残念なことに彼女はその前年にこの出版の事実を知ることなく、心臓病のため僅か19歳の若さで他界しています。

『アイヌ神謡集』は、出版から80年以上も経た今日でも読み継がれており、アイヌ文学の中でも最も愛好されている古典で、既に英語・仏語・ロシア語にも翻訳され、近年は先住民族文化に深い関心を抱くフランスのノーベル文学賞受賞作家、ル・クレジオ氏らにも注目されているところです（「毎日新聞 北海道版」2009年12月4日付記事）。

『知里幸恵ノート』は、彼女の死後、金田一家が保管していましたが、昭和49年に遺族から当館に寄贈されました。当館ではオリジナル資料保存のため、復刻版で利用していただくことが可能です。

そもそもアイヌ語とは、本来文字を使わず口承で伝えられる言語でしたが、大正時代頃から文字で表す試みが続けられており、その原点がこの本となって結実しています。

なお、知里幸恵をめぐる最近の話題としては、2002年8月・9月に北海道立文学館で特別企画展「大自然に抱擁されて…～知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界へ～」が開催されたほか、今秋には、彼女の生地である登別市にて姪である横山むつみ氏（「知里森舎」理事長）らの尽力により、知里幸恵のノート・日記・手紙・写真などを展示する「（仮称）銀のしずく館」がオープンする予定となっています（「室蘭民報」2009年3月11日付記事）ので、ご紹介します。

（北方資料部）

こどもの読書週間（4月23日～5月12日）関連事業

道立図書館では、4月23日の「子ども読書の日」から始まる「こどもの読書週間」に合わせて、さまざまな事業を行っています。

■ 子ども向け図書館ツアー2010「ぼくらは図書館たんけん隊！！」

期日：5月5日（水）14：00～15：30

会場：1F 研修室～書庫等

5月5日のこどもの日に、子ども向け図書館ツアー「ぼくらは図書館たんけん隊！！」のイベントを開催しました。当日は親子連れなど20名の参加がありました。

オリエンテーションでは、イベント全体の説明をしたあと、図書館の本の並び方と資料利用票を使った本の探し方を説明しました。

ツアーは児童コーナーから開始し、児童書庫では本探しゲームを行いました。まず、書庫前でクジを引いてもらい、探す本について記載された「指令書」が入った封筒を渡しました。参加者は、封筒の中に入っている2枚の資料利用票を手がかりに1冊目の本を探し、更にその本の中には2冊目の本を探す「指令書」があるというゲームに熱中していました。2冊目の本の中に手作りのしおり等をはさんでおき、記念品としました。

次に、館長室に案内して、子どもたちに館長席に座る体験をしてもらいました。

続いて、普段入ることのできない書庫の中を案内しました。



館長室の案内

第1書庫では、案内のほかに、旧分類資料（昭和24年までに当館が受け入れた資料）と栗田文庫の児童書を展示しましたが、参加者は興味深く資料を手にとっていました。



第1書庫での説明

第2書庫では、雑誌や、子どもたちの誕生日の新聞を出して実際に見てもらいました。

昨年好評だった館長室の案内や誕生日の原紙を見てもらうということを今年も実施しましたが、参加者には大変喜んでもらえたようでした。

(奉仕部参考調査課)

■ 「あつまれ！ 森林公園クイズラリー」

期日：5月1日（土）～5日（水）

主催（開催場所）：北海道立図書館、北海道開拓記念館、北海道開拓の村、自然ふれあい交流館、北海道立埋蔵文化財センター

北海道開拓記念館が中心となって行われている事業で、道立図書館は3度目の共催になります。野幌森林公園付近にある5つの施設をクイズラリー形式で見学し、3施設で「ゴールイン（達成記念品）」、全施設をまわると「パーフェクト賞（カード）」を渡しました。

参加者の中には、「毎年楽しみにしています」と言ってくださった方や、「近所に住んでいるけど初めて来た」と言われた方もいて、思い思いに各施設をまわり、スタンプを集めて楽しまれたようでした。

開催期間中、天候に恵まれない日もあり、昨年より来館者は少なめでしたが、5日間の総参加者数（5施設）は960名、当館には175名の方が訪れました。



当館の図柄は、平成21年2月、経済産業省から「近代化産業遺産」に認定されたサイロをデザインしたものです。

（業務部業務課）

■ 資料展「たんけんしたいな 本の森」

期日：4月1日～5月12日

会場：1F 児童コーナー

毎年、児童コーナーでは「こどもの読書週間」期間中、児童書の展示を行っています。

今回の展示は、今年の「こどもの読書週間」の標語である「たんけんしたいな 本の森」にちなみ、“森”をキーワードに持つ絵本を中心に約40冊を展示し、多くの利用がありました。



（奉仕部奉仕課）

平成 22 年度全道図書館新任職員研修会

6月2日から4日の3日間、北海道図書館振興協議会と北海道立図書館の主催による平成22年度全道図書館新任職員研修会が開催され、今年度は40名の職員が参加しました。

| | | | | |
|------|--|--|--|--|
| 第一日目 | 講義 「図書館サービスのこれから」 石狩市民図書館 副館長 丹羽秀人氏 | 講義 「カウンターの仕事」 恵庭市立図書館 主任主事 黒氏優子氏 | 講義・演習 「司書のコミュニケーションスキル」 北海道立図書館業務部 市町村支援課長 宮本浩 | |
| 第二日目 | 講義・演習 「みんなで使おう！ 図書館ポータル」 北海道立図書館業務部 業務課主査 桑原裕子 | 講義・演習 「図書館の仕事と著作権」 北海道立図書館 北方資料部長 鈴木浩一 | 講義・演習 「子どもたちに本の楽しさを」 滝川市立図書館 主任主事 深村清美氏 | 情報交換 「図書館を結ぶ人的ネットワーク」 北海道立図書館業務部 市町村支援課長 宮本浩 長沼町図書館 業務係主事 高野順子氏 |
| 第三日目 | 講義 「利用者援助と レファレンスサービス」 北海道立図書館 奉仕部参考調査課 | 講義・演習 「地域資料の 収集・活用・情報発信」 北海道立図書館 北方資料部 | 施設見学 「道立図書館書庫ツアー」 北海道立図書館 業務部市町村支援課 奉仕部参考調査課 | |

1日目は、石狩市民図書館の丹羽秀人副館長が「図書館サービスのこれから」と題して講義、恵庭市立図書館の黒氏優子氏が「カウンターの仕事」として、恵庭市立図書館カウンターマニュアルを紹介しながら、利用者の様々な対応について講義されました。

2日目は、午後に滝川市立図書館の深村清美氏が「子どもたちに本の楽しさを」と題して講義・演習を行いました。滝川市での児童サービスの取組を体系的に説明し、演習では事前に参加者が用意した絵本を参加者同士1対1で読み聞かせを実演し、熱気のある演習になりました。

「図書館を結ぶ人的ネットワーク」では長沼町図書館の高野順子氏をアドバイザーに迎え、グループに分かれ各グループに与えられた課題に対し、お互いの図書館の課題の状況や解決方法等話し合い、その後の全体での情報交換で発表しました。

3日目は講義の後、「道立図書館書庫ツアー」として書庫を案内し館内の様子やコレクションを紹介しました。

この研修について、アンケートでは「大いに役立った」という回答が81%と高く、内容については、「みんなで使おう！図書館ポータル」、「子どもたちに本の楽しさを」といった演習を盛り込んだ講義や「図書館の仕事と著作権」の講義が好評でした。また、他館の実例を知り、参加者同士話す機会を得られたことが有意義だったという回答が多くありました。

時間配分や開催時期、今後希望するカリキュラムなどについては、いただいた意見をもとに検討し、さらによりよい研修になるよう努めます。

(業務部市町村支援課)

かるちやる net ・ 図書館海援隊

■ かるちやる net（文化施設連絡協議会）

「かるちやる net」は、道とイオン北海道(株)との包括連携協定に基づき、札幌市の新札幌地区から江別市に所在する教育・文化施設で構成された協議会です。生涯学習の場づくりの向上を目的とし、各文化施設が協力連携して、事業、広報を進めています。

今年度の予定としては、参加の施設を紹介する「文化施設紹介展」を4・7・10・2月の4回行います。また、各施設が交代で「イオン子ども歴史文化教室」を担当し、イオン札幌平岡ショッピングセンターで小学生向けのイベントを開催する予定です。当館は10月16日（土）に「かんたん豆本づくりと楽しい読み聞かせ」を行います。そのほか、お互いの施設で各施設の案内パンフレットを常備したり、道内のイオン各店でポスターやチラシを掲示したりするなどの広報活動を始めています。

「かるちやる net」の参加施設は、札幌市青少年科学館、サンピアザ水族館、北海道開拓の村、道立自然ふれあい交流館、道立自然野幌森林公園、北海道開拓記念館、道立埋蔵文化財センター、道立図書館、道立教育研究所、江別市セラミックアートセンター、江別市郷土資料館の計11施設で、本年2月3日に第1回の会合が開かれました。（業務部業務課）

■ 図書館海援隊が始まりました

厳しい雇用情勢の状況を踏まえ、平成22年1月、文部科学省の呼びかけに応じ、当館のほか、秋田県立図書館、東京都立中央図書館、神奈川県立図書館、大阪市立中央図書館、鳥取県立図書館、福岡県小郡市立図書館の6館が「図書館海援隊プロジェクト」を結成しました。これは、ビジネス支援等で築いてきたノウハウを生かし、ハローワーク等関係機関との連携を通じて、仕事をなくしたり生活に困ったりしている人たちへの支援に取り組もうというものです。2月以降、医療・健康、福祉、法務等に関する情報提供や支援へと分野を広げ、参加館は23館（4月末現在）に増えました。5月には公民館海援隊も結成されています。

当館における取り組み状況について紹介します。

一般資料閲覧室のビジネスコーナーに「図書館海援隊」コーナーを設け、就業を支援する機関や労働契約等に関するパンフレットを提供するとともに、ホームページに「図書館海援隊」のサイトを開設し、関連機関の情報を掲載しています。



また、各種専門機関等との連携も進めています。法的トラブル解決のための総合案内所として期待されている法テラス札幌との連携を4月から始めました。図書館海援隊コーナーに広報誌等を設置するとともに、法律情報に関する地域住民向け講座の共催等を検討しています。

「図書館海援隊」の趣旨に賛同された(株)東京リーガルマインドからは、就職関連の出版物87冊が寄贈されました。いずれも貸出可能で、図書館海援隊コーナーに配置しています。

（奉仕部参考調査課）

国民読書年関連資料展&北方資料室 40 周年記念展

■ エントランスホール展示「じゃあ、読もう。」

期日：平成 22 年 5 月 29 日（土）～8 月 29 日（日）

会場：1F エントランスホール

平成 20 年 6 月 6 日に衆議院、参議院において「国民読書年に関する決議」が採択されました。本決議において、平成 17 年の「文字・活字文化振興法」制定から 5 年目にあたる本年が国民読書年に指定され、読書活動等の推進に関するさまざまな活動が予定されています。

本展示は、国民読書年を広く知っていただくとともに、図書館をさらに利用していただきたいの思いから、①国民読書年を紹介する「国民読書年とは?」「国民読書年の主な取り組み」、②図書館活用法等の図書を紹介した「図書館へ行こう!～図書館を知る本～」の 2 つのテーマで構成しました。また、関連展示として、閲覧室にミニコーナー「『じゃあ、読もう。』のその前に」を設置し、読書のきっかけ作りとなるブックガイド約 40 冊を集めました。



(奉仕部奉仕課)

■ 北方資料室 40 周年 & 国民読書年記念展

「暮らしに、仕事に、図書館を ～「こんなに使える！」北方資料編～」

期日：平成 22 年 7 月 1 日（木）～8 月 29 日（日）

会場：北方資料室展示コーナー

当館は、大正 15 年 11 月、札幌市内に北海道庁立図書館として創立。昭和 42 年 4 月、現在地へ新築移転。そして昭和 45 年 4 月、北海道、旧樺太、千島関係の資料を、収集から整理、保存、資料提供まで一元的に担当する部署「北方資料室」が誕生しました。北方地域の歴史や現在を知る資料を、50 年後、100 年後の人々にも伝え、活用していただく使命と責任のもと、業務に励んできました。40 周年を迎え、これまでの歩みを振り返るとともに、更なる利用を願っての企画展です。



北方資料室は、歴史研究家のための部屋と思われがちですが、日々の暮らしや仕事、まちづくり等にも役立つ資料がたくさんあります。地域資料ならではの蔵書の多様性や、実際に寄せられた調査相談（レファレンス）事例をもとに、便利な資料を紹介しています。歴史研究はもとより、日常生活の中の「知りたい」を解決する情報源として、北方資料室をどうぞ身近に、お気軽にご活用ください。

(北方資料部)

『鉄道公報』

(『運輸通信公報(運輸版)』、『運輸公報』、『鉄道作業局・局報』)

年中無休というとコンビニ・ストアを思い浮かべますが、普段ほとんど意識せずに利用している公共交通機関は、その最たる例ではないでしょうか。中でも日本の鉄道は世界に名だたる正確さを誇り、新幹線は昭和の技術革新と経済成長を大きく牽引する原動力ともなりました。

今回紹介する『鉄道公報』は、明治40年の帝国鉄道庁の発足から、日曜日や祝祭日を除いて、毎日発行されていた国鉄の内部向けの機関紙です。国鉄の分割・民営化前の昭和62年まで長年にわたって発行されました。

内容は、鉄道に関する詔書、法律、告示(公示)、訓令、達、訓示、辞令、賞罰、通達、通報、雑件、注意事項の各項目に分けられます。法令や大臣・長官の告示、公示は官報でも調べることができますが、鉄道分だけをまとめて調べる場合にはこちらの方が便利な面もあります。また、各種の連絡事項や賞罰など現業現場における生の情報も多数含まれるため、鉄道関係の史料としては第一級のものとなっています。

当館が所蔵する『鉄道公報』は、札幌鉄道管理局の局報などともに鉄道友の会北海道支部から寄贈を受けたもので、公立図書館で所蔵する明治大正期の史料としては全国的にも大変珍しい資料となっています。現在、当館における収蔵状況は次のとおりです。

鉄道公報 (発行：帝国鉄道庁→鉄道院→鉄道省)

1号 (M.40.4.1) ~418号 (M.41.8.14) (欠号：419号~)

398号 (M.43.4.7) ~2325号 (T.9.5.17) (欠号：1号~397号)

1号 (T.9.5.17) ~5033号 (S.18.10.31) (欠号：637~787号,3886~4185号)

運輸通信公報(運輸版) (発行：運輸通信省)

2号 (S.18.11.2) ~348号 (S.19.12.30) (欠号：1号,349号~)

運輸公報 (発行：運輸省)

121号 (S.21.2.1) ~1003号 (S.24.5.31) (欠号：1~120号)

鉄道公報 (発行：日本国有鉄道総裁室文書課)

1号 (S.24.6.1) ~3285号 (S.35.8.31) (欠号：3286号~)

この他にも当館では、明治37年12月分だけですが『鉄道作業局 局報』を所蔵しています。

明治40年の『鉄道公報』1号では、華々しい創刊の辞とは無縁に「物品取扱ニ関スル従来ノ帳簿及用紙類ニシテ現存スルモノハ払底ニ至ル迄使用スヘシ」(原文は旧漢字を使用)という記事(「達」)から始まっています。前身である鉄道作業局時代の用紙類を大切に論しながら、同時に、現場の気持ちも引き締めようという現場向け公報の役割が垣間見られます。

(奉仕部参考調査課)

松前町立図書館リニューアルオープン！

松前町立図書館 主任 佐藤 巧

平成 21 年 10 月 31 日、松前町文化祭が開催される中、2 名の子どもによつてくす玉が割られ、新たな図書館の歴史が幕を開けました。

松前町立図書館は、昭和 49 年の開館より松前町町民総合センターの 3 階にあり、階段しかないため、お年寄りや小さなお子さま、障がいをお持ちの方など、利用しにくい状況でした。



しかし、昨年 5 月、国の地域活性化・経済危機対策交付金を活用し、図書館を 1 階の産業科学実習室に移転することになりました。

さて、3 階から 1 階に移転が決まったものの・・・そこからが大変でした。リニューアルオープンの日は早々に決まりましたが、実質 5 ヶ月で書架の配置や構想、移転方法などを決めて実行しなければなりませんでした。

当館では、平成 18 年から特定非営利活動法人松前まちづくりフォーラムに業務委託しています。委託スタッフが図書館利用者の生の声を聴き、近隣市町図書館を視察した結果をもとに、松前町にふさわしい町民の皆さまが利用しやすい図書館を作るために、教育委員会と打ち合わせを重ね、道立図書館から助言をいただきながら全体の構想を決めました。それをもとに教育委員会職員総出で資料や本棚を移動し、サインの作成、設置、飾りつけなどを行い、予定通りオープンすることができました。

新しい図書館は、330 m²と以前より広くなりましたが、車いす利用者などに配慮し、書架の間隔を広くするなどバリアフリー化したため、開架数は以前より 6 千冊少なく 2 万 4 千冊となりました。また、図書館内に常時読み聞かせができ、多目的利用を視野に入れた「おはなしのへや」や、小さなお子さまが安心して過ごせるよう絵本コーナーを設置しました。



また、松前町では書のまちづくりを推進しており、入口に松前町出身の書家で文化勲章受章者の故金子鷗亭氏やご子息の故金子卓義（かねこたかよし）氏の書を展示しています。

リニューアルオープンしてから約 8 ヶ月、図書館には今まで来る機会が少なかった中高生や高齢者が顔を見せるようになり、訪れる方から「キレイになった」とか「階段の上り下りがなくて楽になった」などの声をいただき、来館者数、貸出冊数とも以前に比べ 1.5 倍程度増えるなど順調に推移しています。まだいろいろな課題もありますが、それらを一つずつ解決しながら町民の皆さまに喜ばれる図書館を目指して頑張っていきたいと思っております。

改修工事費：21,525 千円 改修工事期間：平成 21 年 8 月 9 日～10 月 9 日

掲 示 板

<貸出文庫のご案内>

当館では道内の読書活動を奨励するため、同じタイトルの図書 10 冊を 1 セットとして、地域の図書館(室)を通じて読書グループに貸出しをしています。リクエストも受け付けており、今年度も次の新規タイトルを購入しておりますので、どうぞご利用ください。

(貸出しは奉仕部奉仕課、リクエストは同資料課にお申込みください。)

平成 22 年度新規採用タイトル

- 告白 湊かなえ/著 双葉社 ○贖罪 湊かなえ/著 双葉社
○定本納棺夫日記 青木新門/著 桂書房 ○田村はまだか 朝倉かすみ/著 光文社
○1Q84 BOOK1, BOOK2 村上春樹/著 新潮社

※ 貸出文庫目録はこちらです。

<http://www.library.pref.hokkaido.jp/doc/prtl/kashidashibunko/kashidashibunko%20top.html>

<北海道立図書館協議会委員>

今年度の委員を紹介します。任期は平成 22 年 10 月 31 日までです。

| 氏 名 | 適用区分 | 氏 名 | 適用区分 |
|---------|---------|---------|---------|
| 大久保 雅 人 | 学校教育関係者 | 五十嵐 憲 子 | 家庭教育関係者 |
| 西 村 元 | 〃 | 河 野 博 光 | 学識経験者 |
| 吉 田 真 弓 | 社会教育関係者 | 下 田 尊 久 | 〃 |
| 澤 田 満 | 〃 | 高 原 一 隆 | 〃 |
| 白 渕 ひとみ | 家庭教育関係者 | 小 杉 元 一 | 〃 |

今年度は、協議会委員の改選期にあたります。広く道民の意見を反映させるため、協議会委員 10 名のうち 2 名程度の方を公募により選出します。8 月 1 日から 8 月 31 日までを公募期間としておりますので、詳しくは当館ホームページ(トップページ>道立図書館について>「北海道立図書館協議会」のページ)をご覧ください。

任期は平成 22 年 11 月 1 日から平成 24 年 10 月 31 日までの 2 年間です。

<職員人事異動>

退 職 平成 22 年 3 月 31 日付け

館 長 卷 渕 雄 二 副 館 長 松 尾 裕
北方資料部長 佐々木 裕 道 業務課長 河 合 幹 夫
指 導 主 任 柴 田 裕 治

転 出 平成 22 年 4 月 1 日付け

管理課長 佐 藤 正 治 (三岸好太郎美術館副館長へ) 主任 田 村 東 奈 (石狩教育局へ)
主 任 太刀野 亜也乃 (幕別町図書館へ) 主任 小 林 絵 里 (渡島教育局へ)

転入 平成22年4月1日付け

館長 河合 正月 (総合政策部地域行政局長から)
副館長 武田 和弘 (施設課長から)
業務課長 鈴木 徳光 (宗谷教育局学校教育係長から)
管理課主任 松山 貴紘 (後志教育局から)
調査運用課主任 西岡 祐子 (幕別町図書館から)
奉仕課主任 佐々木 裕道 (再任用)
管理課主任 中山 博重 (再任用)
管理課主任 柴田 茂 (再任用)

転入 平成22年4月21日付け

管理課主任 高橋 聡人 (千歳高等学校から)

館内異動 (昇任を含む) 平成22年4月1日付け

北方資料部長 鈴木 浩一 (市町村支援課長から)
奉仕課長 日暮 文行 (資料課長から)
資料課長 佐藤 良雄 (参考調査課長から)
参考調査課長 吉原 和夏子 (奉仕課主査から)
収集保存課長 丸子 裕 (奉仕課長から)
市町村支援課長 宮本 浩 (収集保存課長から)
奉仕課主査 原 美代子 (資料課から)
参考調査課主査 陶 久郁子 (調査運用課主査から)
調査運用課主査 須之内 美智代 (資料課主査から)
市町村支援課主任 山本 真紀 (参考調査課から)
資料課主任 松下 悦子 (調査運用課から)
資料課主任 伊藤 嘉奈子 (奉仕課から)

<道内図書館の情報>

平成22年4月1日、士別市立図書館条例の改正により、士別市朝日図書室が分館となりました。

また、昨年9月30日付けで小樽市立の北小樽分館が廃止されましたので、合わせてお知らせします。

北海道立図書館報 第189号

平成22年7月23日発行

北海道立図書館長 河合 正月

〒069-0834 江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521 (代表)

ダイヤルイン

386-8531 (業務部)

386-8522 (奉仕部)

386-8523 (北方資料部)

FAX 011-386-6906

E-mail: toshokan.gyomu1@library.pref.hokkaido.jp

H P: <http://www.library.pref.hokkaido.jp>